

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

タバココナジラミのトマト黄化葉巻ウイルス保毒状況と防除対策（技術情報第13号）
について（送付）

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、防除指導の参考資料としてご活用下さい。

記

1 調査結果

- (1) 9月1日に野外で採集したタバココナジラミについて、各地点当たり20個体のトマト黄化葉巻ウイルス保毒状況を調査した（表）。3地点とも保毒虫が認められなかったことから、野外の保毒虫率は平年並と推測される。
- (2) 冬春トマト栽培地域における黄色粘着板のコナジラミ類捕獲数は、3地点とも8月3～4半旬から増加している（図）。
- (3) タバココナジラミの保毒虫率は、これまでの調査でトマト栽培終了直後の7月に最も高く、トマト栽培がない夏期に急速に低下し、定植期に最も低くなることが明らかになっている（参考）。今年も平年並の保毒状況であったことから、これまでと同様に保毒虫率が低下していると推測される。

2 防除対策

保毒虫は平年並であるが、コナジラミ類の密度が増加しており、トマト黄化葉巻病の発生には注意が必要である。特に、生育初期に感染すると被害が大きくなるので、以下の防除対策を徹底する。

- (1) 地域内の野良生えトマトは、ウイルスの伝染源となるので除去する。また、ハウス周辺及び内部の雑草は、タバココナジラミの生息・増殖場所となるので、必ず定植の10日前までに除去し、栽培期間中も定期的に除草する。
- (2) ハウス開口部（天井、サイドなど）には目合い10.8mm以下の防虫ネットを必ず設置し、タバココナジラミの侵入を抑制する。なお、目合いを小さくするほど侵入阻止効果は高いが、その場合、高温対策に留意する。
- (3) 黄色粘着トラップを施設内に設置し、コナジラミの早期発見に努める。
- (4) ハウス内の発病株は二次伝染源となるので、見つけしだい直ちに抜き取り、施設外に持ち出し埋没処分するか、ビニール袋等に入れて完全に枯れるまで密封処理する。
- (5) 育苗期後半もしくは定植時に粒剤を施用する。また、ハウス内のタバココナジラミによる二次伝染を防ぐため、薬剤防除を併せて行う。
（注意：農薬使用にあたっては、使用方法、使用時期、総使用回数等を厳守する。）

熊本県農業研究センター 生産環境研究所
病害虫研究室 予察指導係（病害虫防除所）
担当：東 TEL：096-248-6490

表 9月のタバココナジラミのトマト黄化葉巻ウイルス保毒状況

地点名	保毒虫数/供試虫数（頭）				
	本年	平成20年	平成19年	平成18年	平成17年
熊本市	0/20	-	1/20	-	0/30
玉名市	0/20	0/20	0/20	1/30	1/30
八代市	0/20	-	0/20	4/30	-

注1) 供試虫は、野外に設置したウイルス未感染トマト苗および黄色粘着板から採集した。採集した供試虫は、PCR法で保毒の有無を確認した。

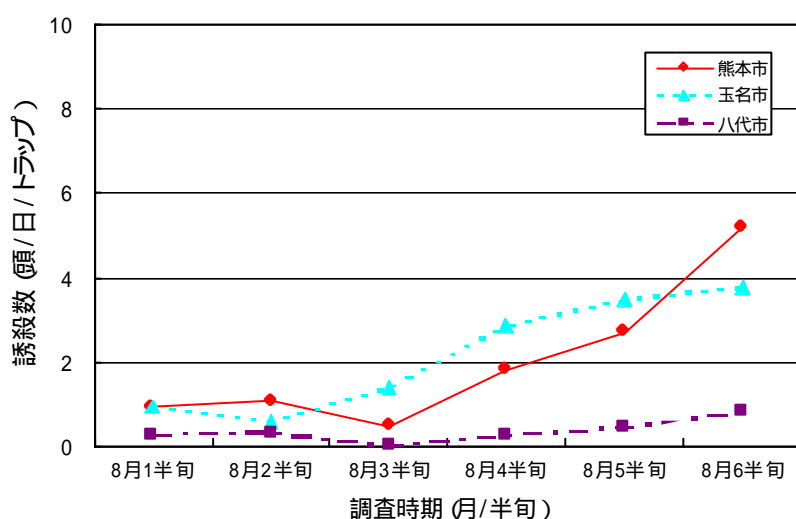
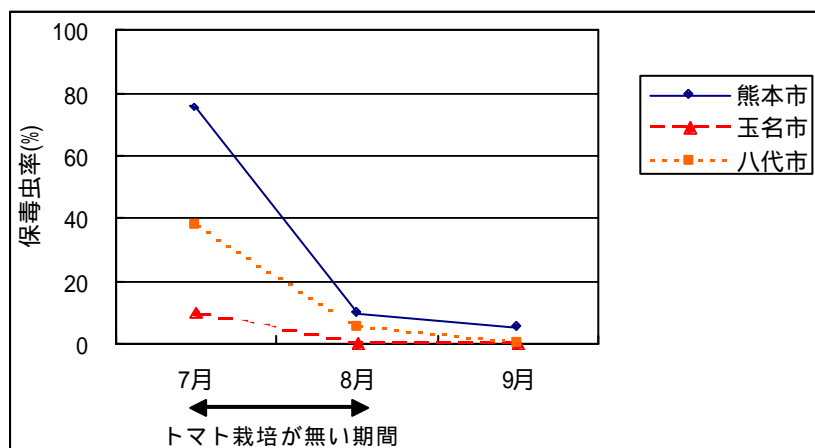


図 冬春トマト栽培地域における野外のコナジラミ数の推移^{注1)}

注1) 黄色粘着板（10×10cm）を各地点に3枚設置し、誘殺数を調査した。

参考



7～9月における野外の保毒虫率の推移（平成19年）